

麻しん（はしか）流行に伴う、

外来受診患者さんへのお願い

今年に入り、大阪府内では麻しん（はしか）患者が急増しており、平成31年2月12日時点で46名が発症し、昨年報告数の約3倍となっています。今後、広範な地域において麻しん患者が発生する可能性が指摘されています。

発熱や発疹等にて当院を受診される患者さんで、過去3週間以内に麻しん患者（疑い患者も含む）と接触した経緯がある方は、必ず事前に「麻しんかもしれない」旨をお電話もしくは診療所裏口のインターフォン越しに職員へ申し出てください。また麻しんは感染力が非常に強く、同じ空間を共にするだけで他人に感染させてしまう可能性があります。公共交通機関の利用を避け、速やかな受診をお願いいたします。

*麻しん（はしか）とは

主な症状	38℃前後の発熱が2～4日間続き、倦怠感（小児では <u>不機嫌</u> ）があり、感冒症状（ <u>咳、鼻みず、くしゃみ、結膜炎症状</u> ）が現れて次第に強くなります。その後、高熱（多くは <u>39℃以上</u> ）が出るとともに、発疹が出現します。発疹が <u>全身に広がる</u> まで、高熱（ <u>39.5℃以上</u> ）が続きます。発疹出現後3～4日間続いた発熱は解熱し、その後、合併症のないかぎり7～10日で症状が回復します。 合併症には肺炎や中耳炎があり、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発生すると言われています。
感染経路	* 空気感染、飛沫感染、接触感染により人から人に感染が伝播します。その <u>感染力は非常に強く、感染する期間は、発症の1日前から解熱後3日頃まで</u> とされています。 免疫を持っていない人が感染するとほぼ <u>100%発症</u> し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。 * 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以内と言われています。
潜伏期間	約10日～12日間（最大21日間）
治療法	特異的な根本療法はなく、対症療法を行います。
予防方法	麻しんは感染力が強く、手指衛生、マスクのみで予防はできないため、麻しんワクチンの予防接種が最も有効です。 麻しん罹患歴がない方、麻しんワクチンを2回接種していない方は、予防接種を検討することをお勧めします。